

会 議 録					
行田市教育委員会 令和2年第8回 7月定例会					
招集年月日	令和2年7月22日(水)		開会場所	行田市産業文化会館 第2会議室	
開閉の時刻 及び宣言者	開会	7月22日(水)	午後 1時30分	教育長 鈴木トミ江	
	閉会	7月22日(水)	午後 5時25分	教育長 鈴木トミ江	
教育長	鈴木トミ江	教育長職務代理者	岸田昌久	仮議長	
席次番号	出席の教育長 及び委員氏名	摘 要			
1	鈴木 トミ江				
2	岸田 昌久				
3	鹿山 高彦				
4	飯塚 千十世				
5	大久保 英子				
議 事 参 与 者			書 記		
学校教育部長	吉田 悦生	書記長	諸貫 忠秋		
生涯学習部長	藤井 宏美	書記次長	上野恵美子		
学校教育部参事		書記	久積 史明		
兼学校教育課長	荻原 章				
学校教育部次長					
兼教育総務課長	諸貫 忠秋				
学校教育部副参事	今成 健				
学校給食センター所長	小林 誠				
ひとつくり支援課長	野口 啓司				
スポーツ振興課長	杉山 孝義				
文化財保護課長	中島 洋一				
教育文化センター所長					
兼中央公民館長	風間 重文				
郷土博物館長	鈴木紀三雄				
図書館長					
兼視聴覚ライブラリー館長	柿沼 誠				
教育研修センター所長	斎藤 操				
学校教育課主幹	亀山友宏				
学校教育課主幹	佐藤克己				

会議事件名		顛	末
会 議 の 進 行 状 況		市民憲章唱和（省略）	
		教育長 本日は、傍聴人11名である。また、会議日程は議案5件である。日程第5 議案第68号について、教科用図書の採択に係る部分のみ非公開とし、採択に先立つ報告、協議並びにその他の議案は公開することによいか。	
		【全委員承認】	
		教育長 日程に先立ち、6月定例会の会議録について事務局に報告を求める。	
		書記次長 6月定例会、会議録報告	
		教育長 何か意見等はあるか。	
		【全委員承認】	
	議案第64号	教育長提案、書記次長議案朗読	
	行田市立学校給食センター運営委員会委員の委嘱について	学校給食センター所長 本案は、行田市立学校給食センター運営委員会委員の任期満了に伴い、新たに委員を委嘱しようとするものである。 運営委員会規則により、学校給食の年間事業計画等を審議いただくもので委員は10名、委員長は市長、副委員長は教育長とされ、その他の委員について、選出母体から推薦いただいた方々で、新任5名、再任5名となっている。 任期は、令和2年8月1日から令和3年7月31日である。	
		教育長 何か意見等はあるか。	

<p>会 議 の 進 行 状 況</p>	<p>議案第65号 行田市学校給食調査研究委員会委員の委嘱について</p>	<p>岸田委員 本年度は定例な事項のほか、給食無償化の動きや県内で発生した集団食中毒などの大切な部分についても、取り上げてほしい。</p> <p>学校給食センター所長 了解した。</p> <p>【全委員承認】</p> <p>教育長提案、書記次長議案朗読</p> <p>学校給食センター所長 本案は、5月定例会で承認いただいた行田市学校給食調査研究会委員について、新型コロナウイルス感染拡大防止により総会が延期し、未選出となっていたPTA代表について、推薦書が提出されたため、委嘱しようとするものである。4名はすべて新任で、任期については、令和2年7月23日から令和3年5月31日までである。</p> <p>教育長 何か意見等はあるか。</p> <p>岸田委員 食材の選定もこの委員会が行うものと認識しており、給食センターの会議室には、試食するための調理スペースがある。 県内で起きた集団食中毒は、加熱処理しなかったことが原因であった。本市ではO-157の流行以来、生野菜の提供をしていないことなども委員会において、再確認してほしい。</p> <p>学校給食センター所長 食材の選定は、県の栄養士2名と市の栄養士1名で行っている。野菜については3回洗浄し、70～80度で熱処理したものを提供している状況である。 委員会や会議室の意義について再確認していく。</p> <p>鹿山委員</p>
--	---	--

<p>会 議 の 進 行 状 況</p>	<p>議案第68号 第19採択地区令和3年度 使用中学校教科用図書 の採択について</p>	<p>任期は、令和2年8月1日から令和4年7月31日である。</p> <p>教育長 何か意見等はあるか。</p> <p>岸田委員 市内には、足袋蔵等で構成される日本遺産、特別史跡となつた埼玉古墳群がある。博物館を中心に、本市のアピール、町おこしをお願いしたい。</p> <p>郷土博物館長 委員には、考古学や民俗学、建築、江戸時代の専門家に加え、各団体から推薦された幅広い分野の委員がいる。委員の意見を伺いながら事業を行っていきたい。</p> <p>【全委員承認】</p> <p>教育長提案、書記次長議案朗読</p> <p>教育長 協議は、教科ごとに進めてよいか。</p> <p>【全委員承認】</p> <p>学校教育課長 「令和3年度使用教科書の採択事務処理について」（令和2年3月27日付 第39号 各都道府県教育委員会教科書関係事務主管課長宛文部科学省初等中等教育局教科書課長通知）において、中学校用教科書について、すべての教科書について新たに採択を行うこととされている。 これに伴い、令和3年度から使用する中学校用教科書目録（令和3年度使用）に登載された教科用図書のうちから採択を行う必要がある。 また、採択の権限は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条第6号により、行田市教育委員会が有するため、議案として提案するものである。</p>
--	---	---

		<p>教育長</p> <p>まず、国語について報告を求める。</p> <p>学校教育課主幹</p> <p>まず、東京書籍について、「学びを支える言葉の力」で「論理的な言葉」「文学的な言葉」「対話的な言葉」の基礎的内容を取り立てて学習する教材が設けられている。</p> <p>SDGsを根底においた題材を多く取り上げたり、現代社会ならではの課題に着目したりして、社会生活や個人と社会についての関わり等について考えることができるよう工夫されている。</p> <p>学年で3つ現代的な問題を扱った文章や日本文学作品などを紹介し、併せて、関連する読書教材を提示している。資料編でもテーマごとに読書教材を紹介している。</p> <p>生徒の興味・関心を喚起する日常、社会生活に関わるものを取り上げていたり、発達段階に応じた文種・文章構成・文章量を設定したりしている。</p> <p>次に、三省堂について、「情報の扱い方」については、グラフや図表、文章等、複数の情報を関連付けて考え、表現する単元を各学年で特設している。</p> <p>3学年を通して第一単元に「グループディスカッション」を配列したり、資料編で「メモの活用方法」や「メールの書き方」などを提示したりして、実践的な言語活動や技能の習得を図っている。</p> <p>「読むこと」の教材ごとに3つの読書教材を紹介している。読書単元「読書の広場」では、テーマごとに読書教材が紹介され日本文学作品や古典、現代作家の作品を掲載し学んだことが活用できるようになっている。</p> <p>「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材や「読むこと」教材の「学びの道しるべ」は、学習手順を上段に、「学習のポイント」や「思考の方法」「語彙を豊かに」は下段に示すなど情報を整理したレイアウトになっている。</p> <p>次に、教育出版について、「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、巻末の「表現に役立つ言葉」で場面ごとに表現の型を取り上げ、情報の扱い方につなげている。</p> <p>SDGsなど現代における多種多様な社会の課題を題材に、教材の始めの「学びナビ」で、文章の読み方を示したり効果的な</p>
--	--	---

		<p>思考力のはたらかせ方を解説と図解で示したりして活動内容を視覚化・明確化している。</p> <p>各単元でテーマごとに関連する読書教材が紹介されている。各学年で2つ読書教材として現代的な話題を扱った作品や日本文学作品が掲載されている。</p> <p>本文と脚注など内容のまとまりを明確化したり、文字と、イラストや図表、模様などとの空きや重なりに注意したり、マークやデザインの使用を統一的に整理したりするなど、教材の重点事項に集中しやすくなっている。</p> <p>次に、光村図書出版について、各学年に「言葉を集めよう」(1年)「言葉を比べよう」(2年)「言葉を選ぼう」(3年)という教材を系統的に位置づけ、巻末の「語彙を豊かに」とともに語彙の拡充を図る構成となっている。</p> <p>「読むこと」の教材のあとに、そこで学んだことを生かせる言語活動の教材が配置され、関連づけて活動できるよう工夫されている。また、教材末の「言葉を広げる」では語彙の拡充を図る工夫も見られる。</p> <p>巻頭に1年間の学習の学びが一覧で示され、見通しをもつことができる。巻末の「学習を振り返ろう」で領域ごとの問題に取り組み、1年間で身につけた力を確認することができるように工夫がされている。</p> <p>情報のまとまりが認識しやすいように、各領域の教材名や覚えておきたい知識などは、アイコン・マークを付して示されている。また、表やグラフは形や線の種類、濃淡、地紋などで識別できるよう配慮されている。</p> <p>教育長 国語について意見はあるか。</p> <p>岸田委員 本市は、学力向上に力を入れている。特に「読解力」の育成は、最重要課題であり、各校とも校内研究の主題として取り上げられている印象がある。国語を学習する上で何を学ぶか。求めるかが重要で、東京書籍においては、何を学ぶか整理されている印象がある。「ここが大切」という標記もよい。</p> <p>鹿山委員</p>
--	--	---

		<p>「読解力」を高めるということで教科書を見ていくと、光村図書出版も、「読むこと」の教材のあとに、そこで学んだことを生かせる言語活動の教材が配置され、学習の関連づけができています。</p> <p>また、文字も見やすい印象である。</p> <p>飯塚委員</p> <p>光村図書出版や東京書籍で扱う教材は、親しみやすさを感じる。例えば、東京書籍は、個性豊かな6人の生徒と水先案内人の言葉の精のキャラクターを設定し、親しみやすい。会話を通して学びを深められる。読解力を育むためにも、まずは子供たちの目線になって、「親しみやすい教材」なのかどうかを見極めることも重要である。</p> <p>大久保委員</p> <p>喫緊の学力課題である「読解力」を高める視点も大切である。推薦図書の作家や作品、あらすじの掲載は本を読むきっかけとなる。国語科は、言葉を学ぶ基礎・基本となる教科である。学習指導要領で示されている「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材についても、それぞれの会社で特徴があった。教育出版では、「書くこと」の教材が多く設定されていたように感じる。</p> <p>岸田委員</p> <p>コロナ禍や教科の内容増で、教員が読書に取り組む時間も少なくなっている。「学びつつある教師が教える資格あり」という言葉がある。教える教師側が活用する指導書などの中身についても重要と感じる。</p> <p>教育長</p> <p>次に、書写について報告を求める。</p> <p>学校教育課主幹</p> <p>まず、東京書籍について、単元の章末において、目的に応じた表現の仕方について学び、必要な情報を選択する等、段階的に演習を交えながら日常生活に生かせるような構成となっている。</p> <p>「生かそう」という学習課程には、毛筆で学習した点画の書</p>
--	--	--

		<p>き方等を掲載している。毛筆で学んだことを硬筆に生かせるような工夫をしている。</p> <p>「生活に広げよう」では、はがきの書き方やポップの作り方を記載し、日常生活で学んだことをイラストで説明している工夫がみられる。</p> <p>「振り返って話そう」で、単元の振り返りを対話を用いて行えるような工夫がされている。「書写で学ぶこと」、「書写の学習の進め方」で学習過程を示している。</p> <p>次に、三省堂について、「目標を確かめよう」、「書き方を学ぼう」、「見つけよう・考えよう」、「毛筆で書こう」、「学習を振り返ろう」、「書いて身につけよう」、「自分の言葉でまとめよう」という7つの学習過程を示して、学習の見通しをもたせている。</p> <p>学年ごとに場面に沿った適切な文字の選択など、学習したことを生かせるような工夫として、手順を詳細に示している。</p> <p>学習の流れとして、①目標を確かめて学習の見通しをもつ②書き方のポイントをつかむ③自分の言葉で自分の考えを書く等、7つの学習過程を設け、学習の仕組みを説明している。</p> <p>自分の言葉で直接教科書に記入する学習が特徴的である。主体的・対話的で深い学びがなせるような工夫が目立つ教材である。</p> <p>次に、教育出版について、各学年の取組において段階を追って章立て、学習者にねらいを意識しながら取り組ませるように構成している。また、教科書に学習のポイントや気づいたこと、まとめや応用を書かせる欄を設け、課題を意識し考えながら習得させるように構成している。</p> <p>「学習の進め方」として①目標(試し書き)②考えよう③生かそう④振り返ろう⑤学習や日常生活に生かそう、という流れが示されている。</p> <p>教材ごとに学習のはじめに硬筆で試し書きをしてから、毛筆での書き方を学ばせるようになっている。</p> <p>「学習を生かして書く」の単元で礼状、レポート、ポスター、新聞、掲示物、案内状などを扱い、また、巻末の「書式の教室」で、はがき、封筒、原稿用紙、願書などを取り上げ、生活と書写との関連を提示している。</p> <p>次に、光村図書出版について、教科書と対応させながら、「書写ブック」を活用することによって、硬筆での筆使いや字形、組み立てなど基礎的な事柄を定着させる工夫がされている。</p>
--	--	--

		<p>「考えよう」の問いについて考えることで、主体的に学習のポイントを見つけられるよう構成されている。</p> <p>取り外して使える「書写ブック」が教科書と対応させながら活用できるように工夫されている。</p> <p>教科書の学習で毛筆を学んだ後に「生かそう」で学習したことを生かして硬筆で書くように構成されており、硬筆と毛筆を関連づけながら学習できるようになっている。</p> <p>教育長 書写について意見はあるか。</p> <p>岸田委員 どの教科書にも設定されているが、QRコードやURLでアクセスすることで、手本となる動画が見ることができる。これを活用するためにも、学校教育のICT環境整備が必要である。</p> <p>大久保委員 良い手本を動画として確認できる点では、各社とも工夫がなされていることがよく伝わる。報告書を拝見すると、各社とも資料においてもよく工夫されている。東京書籍では、「とん」「すう」「ぴた」という筆の入り・止めがわかりやすい。また、「書写活用ブック」は、赤や青で示された注意点など興味深かった。 教育出版では、行書の筆の動きなどの説明はよく示されている。</p> <p>飯塚委員 書くときの良い姿勢について、教育出版では作業療法の観点から体幹に着目し、生徒が自ら習慣化できるように工夫されている。成長期の中学生において、姿勢はとても大事である。 仮名の学習「いろは歌」では文脈の解釈があり、国語などの教科とのつながりを感じられた。</p> <p>鹿山委員 教育出版は、文学作品や言語活動を題材として国語の授業と連携しながら、習得事項を生かす単元を設けていた。三省堂や教育出版は、最初の文字が見開きで大きく示されており、子供たちが習うのによい。</p>
--	--	---

		<p>岸田委員</p> <p>書写は、授業でノートやメモをとるスピードの違いは、学力の差につながる。また文字は人のなりといわれており、生活にも学力にもつながっている。中東にはカリグラフィーがあるが、日本の書は誇る部分であり、大切にしたい。</p> <p>教育長</p> <p>次に、社会について、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図の順で報告を求める。</p> <p>学校教育課主幹</p> <p>まず、地理的分野 東京書籍について、編や章・節の最後に「学習を確認しよう」や「〇〇のふり返ろう」があり、基礎的・基本的な知識・技能を確認することができるようになっている。</p> <p>「見方・考え方」のマークを示し、地理的な見方・考え方を活用して考察する学習活動を提示している。</p> <p>各編の最初に「小学校の学習を振り返る活動」及び「導入の活動」を設定し、学習への興味・関心を促す学習活動が示されている。</p> <p>次に、教育出版について、1 単位時間の内容が見開き 2 ページの中にまとめられ、見開きごとに「学習課題」と「確認／表現」が設けられている。「確認！」では、その時間の学習で学んだ重要な語句などに着目しながら、基礎的な事柄を抑えることができる。</p> <p>「読み解こう」のコーナーがあり、資料の読み取りの視点を与えるとともに、資料をもとに考えを深める設問が示されている。</p> <p>最初に地理の学習を始めるにあたり、「小学校の学習の振り返り」、「中学校の学習の見通し」、「地理的な見方・考え方」についてのページが掲載されている。</p> <p>次に、帝国書院について、「技能をみがく」コーナーがあり、地理学習をする上で必要な基礎的な技能の育成を図るようにしている。</p> <p>章（節）末に、「章（節）の学習を振り返ろう」があり、各章（節）の思考力・判断力・表現力のまとめができるようにしている。</p> <p>日本の諸地域において、「地域の在り方を考える」のコーナー</p>
--	--	---

		<p>があり、SDGsに関連したテーマを掲載し、持続可能な社会に興味・関心を喚起する工夫がなされている。</p> <p>次に、日本文教出版について、「スキルUP」のコーナーがあり、地理の学習に必要な技能を習得できるようにしている。</p> <p>表紙扉において、地理的な見方・考え方について整理している。</p> <p>「チャレンジ地理」のコーナーがあり、社会の課題について考察・構想する学習活動を設定している。</p> <p>続いて、歴史的分野 東京書籍について、絵画資料を大きく取り上げる「資料から発見！」を設け、資料読解の技能を高めるために読み取りのポイントが指示されており、どこに注目し、どのように考えれば良いのかがわかりやすい。</p> <p>歴史的な見方・考え方を活用して取り組む場面に「見方・考え方」のコーナーを設け、マークも付してあるので、より深い思考・判断ができるような工夫が見られる。</p> <p>歴史学習の終わりに「持続可能な開発目標（SDGs）」を取り上げ、SDGsについて理解し、持続可能な社会について自分の考えをまとめる「歴史のまとめ」で、学びを深められるようにしている。</p> <p>次に、教育出版について、「歴史の技」コーナーを適宜設け、資料の活用に関わる問いを通じて、歴史学習の基本的な技能を身につけられるような工夫が見られる。</p> <p>「確認／表現」や「学習のまとめと表現」にグループによる学習活動が設定され、協働活動をもとに、多角的に理解し考察を深めることができるようにしている。</p> <p>各時代の文化について、わかりやすいマークをつけて紹介し、日本の伝統的な文化とともに、世界の多様な文化についても理解を深めることができるよう配慮している。</p> <p>次に、帝国書院について、「技能をみがく」コーナーを12か所設け、史料読解や聞き取りからの情報収集や多面的・多角的な分析の力を養えるような工夫が見られる。</p> <p>章末の「章の学習を振り返ろう」では、中学生が時代の特色の説明いきなり挑むのは難易度が高いという考えから、3段階のステップを設けて、課題を解決できるような工夫が見られる。</p> <p>文化財などの写真を豊富に掲載したり、本文では文化の担い手となった人々の努力や工夫がわかったりするような工夫が見られる。</p>
--	--	---

		<p>次に、山川出版について、史料や図版・地図・グラフなどには、ポイントをおさえるための解説や発問を付し、見るべき視点を具体的に示す工夫が見られる。</p> <p>テーマで描いている事象が、どのような時代を背景としたものか、歴史の変化の過程でおこる諸課題がどのように解決され、積み重なってきたかを時期・推移・因果関係・差異などに着目しつつ学べるよう、本文の叙述や発問に工夫が見られる。</p> <p>日本の文化についての記述を通し、伝統と文化を尊重する態度を養うことができるような工夫が見られる。</p> <p>次に、日本文教出版について、「基本用語」では、歴史学習における必要な知識を解説し、「スキルUP」では、技能を説明すると同時に、その向上が図れる工夫がされている。また、歴史の流れを大観しやすいように、各ページに年表が位置付けられている。</p> <p>歴史チャレンジでは、多面的な資料を選択させ、自分の判断に基づき議論を通して、時代の特色に迫る学習を位置付けている。また、対話的な学習を促す活動を設定している。</p> <p>地域を調べるという項目において、身近な地域や自分たちとの生活のつながりを意識させやすい歴史的事象の紹介がされている。</p> <p>次に、育鵬社について、鳥の目で歴史の流れを大観できるよう、各章冒頭に各時代の歴史の大きな流れがひと目でわかる「歴史絵巻」を設けている。</p> <p>本文を多角的な視点で詳しく解説した多彩なコラムが、生徒の伝統と文化の特色を多面的・多角的に考察する力、公平な判断力、適切な表現力が養えるようにしている。</p> <p>歴史絵巻やなでしこ日本史など歴史を特徴的（別の視点からのアプローチ）に捉えたものが多く、多面的な見方・考え方と同時に、歴史への興味・関心につなげている。</p> <p>続いて、公民的分野 東京書籍について、章末の「学習をふり返ろう」で、章の知識・技能のまとめができるようにしていたり、「スキルアップ」のコーナーで、基礎的・基本的な技能が習得されるようにしたりしている。</p> <p>「みんなでチャレンジ」のコーナーで、対話的な活動をとおして、思考力、判断力、表現力の育成が図れるようにしている。</p> <p>選挙権や成人年齢の引き下げを配慮した「18歳へのステップ」のコーナーがある。また、各章の最初に「導入の活動」を設</p>
--	--	---

		<p>定し、章の学習への興味・関心を促す学習活動が示されている。</p> <p>次に、教育出版について、章末の「学習のまとめと表現」で、章の知識・技能のまとめができるようにしている。</p> <p>「公民の技」のコーナーで、学習内容に関連した学習活動を示し、活動を通して、思考力、判断力、表現力等を育成するようにしている。</p> <p>章の最初の見開き2ページで、章の学習の見通しをもたせる学習活動及びどのような学習を行うかの説明が示されている。</p> <p>次に、帝国書院について、「技能をみがく」コーナーで、学習する上で、必要な基礎的な技能の育成を図るようにしている。</p> <p>「アクティブ公民」のコーナーがあり、学習課題を示し、見方や考え方を働かせながら様々な立場から考え、選択・判断に取り組むようにしている。</p> <p>章の最初に見開き2ページで、章の導入の学習活動が示されるとともに、学習の見通しの説明文が示されている。</p> <p>次に、日本文教出版について、学習内容の理解を深めるための主体的・対話的な学習活動として「アクティビティ」を多数示している。</p> <p>「明日に向かって」のコーナーで、生徒の将来の社会参画を考えた内容を示している。</p> <p>各1単位時間の学習課題が提示されるとともに、その学習課題の解決に向けて手がかりになる「見方・考え方」の例が示されている。</p> <p>次に、自由社について、公民学習に必要な重要な語句については、「ミニ知識」のコラムが設けられ、正しく理解できるようになっている。</p> <p>思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、「アクティブに深めよう」のコーナーでは生徒の活動に焦点を当てた構成となっており、活動を通して思考力、判断力を高めるようになっている。</p> <p>「もっと知りたい」のコーナーで、より一層深く物事が学べるようになっている。</p> <p>次に、育鵬社について、章の終わりの「学習のまとめ」で、知識の習得の確認ができるようにしたり、「スキルアップ!」のコーナーでは、基礎的な技能の育成が図れるようにしたりしている。</p> <p>1単位時間ごとに、学習のまとめとして、「まとめる、説明す</p>
--	--	--

		<p>る、調べる、発表する」等の課題を示している。</p> <p>章の扉で、小学校で学習した関連内容を紹介するとともに、章の最初に「入り口」として、章で学ぶ内容を貫く課題として提示している。</p> <p>続いて、地図 東京書籍について、日本の100万分の1の一般図では、標高と地形区分による段彩を組み合わせ、地形の特色を読み取りやすくし、土地利用を概観する50万分の1の一般図との役割分担を明確化している。</p> <p>縦向きの地図を効果的に使い、1枚の地図に同縮尺で掲載することで、大陸部分を中心に、地球儀の代わりに使用できるようにしている。</p> <p>次に、帝国書院について、地図帳を活用する方法や地形図を読み取るための具体的な手順を示し、地図帳活用の技能や地形図の読図力を身につけられるよう配慮している。</p> <p>自然環境、人口密度、言語、産業、日本との結びつきに関する資料などを国や州ごとに同縮尺で豊富に掲載することで、比較を通して気候と農業の関係性など、地域の特色について考えることができるようになっている。</p> <p>教育長 社会全般について意見はあるか。</p> <p>大久保委員 地理は、地図なども活用しながら、学習を進めていくことも多く、防災や地震など、災害国日本に暮らす私たちの問題意識を持てるようにすることが教科書には求められる。そのような点では、どの会社の教科書も工夫あるつくりになっていた。</p> <p>飯塚委員 地理的分野、帝国書院の教科書は、世界と日本の諸地域学習の初めに写真から資料を読みとるしかけがあり、視覚を通して、地域を概観できるようになっていたり、1単位時間ごとに学習内容に関連する導入・中心資料及びその解説文が掲載されていたりして地図とも併用しやすい工夫がされている。</p> <p>また、教育出版や帝国書院では、埼玉県の写真が多く扱われている。</p> <p>教育出版の日本の領土をめぐるの章では、ロシアとの友好</p>
--	--	--

		<p>的な交流が期待されていると感じた。</p> <p>鹿山委員</p> <p>歴史分野、東京書籍では、他分野や社会以外の様々な教科書で取り扱っている学習内容にマークがつけられており、他教科との連携が工夫されている。</p> <p>金錯銘鉄剣について、帝国書院では埼玉県行田市と記載されており、子供たちは誇らしく感じられるのではないかと。</p> <p>岸田委員</p> <p>国宝の金錯銘鉄剣や特別史跡の埼玉古墳群は、とても貴重で大切な歴史的遺産であり、これらを取り上げられていることも子供にとっては大切である。育鵬社や東京書籍は、その鉄剣をページいっぱいに行きわたらせるだけ大きく、そして見やすく掲載していた。</p> <p>大久保委員</p> <p>東京書籍は、資料、写真や図表共に豊富であると感じた。また、「スキル・アップ」のコーナーを設定し、歴史の基礎・基本が学べるようになっている。基礎・基本をしっかりと学習するには、まずは歴史の史実を言葉として学ばなければならない。山川出版は、用語解説がとても丁寧であると感じた。</p> <p>飯塚委員</p> <p>県の調査報告書では、学び舎において知識・技能が習得される工夫として、「地域の博物館で調べる」でインターネットや博物館を利用した調べ学習や体験者からの聞き取り、討論の方法等が紹介されている。と報告されていた。</p> <p>岸田委員</p> <p>自分の街に博物館があることは恵まれていることである。埼玉古墳群の古代、のぼうの城の舞台である忍城、日本遺産の足袋産業等の展示がある。博物館を利用し、討論する活動等を行ってほしい。</p> <p>東京書籍は、ページの下部に年表が設けられており、時代がつかみやすい。</p> <p>育鵬社はイラストも多く、歴史のものさしが設けられている。</p>
--	--	--

		<p>歴史は、私たちにつながるとても興味深いものである。子供には、楽しく学んでもらいたい。</p> <p>飯塚委員</p> <p>地図について、帝国書院の「地図活用」では、クイズ形式で知識や技能を身に付けられるような工夫が生徒には親しみやすいと感じた。</p> <p>鹿山委員</p> <p>東京書籍は、グラフや資料が多く採用されている。巻末の世界の統計の部分で、国の面積の単位が、帝国書院は「万平方キロメートル」、東京書籍は「千平方キロメートル」という違いがあったが、人口の単位はどちらも「万人」であった。</p> <p>また、国の名前も帝国書院は「アゼルバイジャン共和国」、東京書籍は「アゼルバイジャン」という違いがあった。</p> <p>岸田委員</p> <p>帝国書院は、大きく見やすい。歴史資料としても使いやすいつと感じた。</p> <p>教育長</p> <p>次に、数学について、報告を求める。</p> <p>学校教育課主幹</p> <p>数学 東京書籍について、「学びをふり返ろう」のページを内容のまとまりごとに設け、問題解決のために用いた表現・処理方法を自分の言葉でまとめることで、知識・技能の定着を目指している。</p> <p>「数学の自由研究」のページでは、身近な事象に関連して、数量や図形などを数理的に考察するような題材などが取り上げられ、数学的な思考力・表現力を高めるように構成されている。</p> <p>事実、方法、理由を説明する記述式の問題を中心に取り上げている。各章の利用問題にある「深い学び」では、日常生活に見られる具体的な問題場面が取り上げられており、数学を学ぶ意義や有用性を実感できるようにしている。</p> <p>巻末の「「深い学び」をふり返ろう」のページでは、数学的な見方・考え方について再確認する場を設けている。</p> <p>次に、大日本図書について、学習した内容の定着を図るため</p>
--	--	--

		<p>に、「プラス・ワン」や「たしかめよう」など既習事項を繰り返し練習する機会が設けられている。</p> <p>「活用・探求」のページでは、章ごとの学習だけではなく、教科横断的な学習も取り入れており、統合的・発展的に課題を解決することができるようにしてある。</p> <p>章末に「ふり返ろう」のページを設け、学習の振り返りを行うことができる。さらに幅広い知識を習得するための発展的な課題として「力をのばそう」を設定している。</p> <p>「利用の節（項）」のページでは、教科書右端に課題解決の進め方を示している。身のまわりの事象の中から問題を発見し、考察する過程が明確になっており、学習内容の有用性を実感できるようにしている。</p> <p>次に、学校図書について、例題では、ノート形式で適切な箇所に解答を示し、模範的な解き方を例示している。ノートを書く際に気をつける点についても触れられており、生徒の思考のまとめ方の基礎・基本を身につけることができるようにしている。</p> <p>「深めよう！」のページでは、章ごとの学習だけではなく、教科横断的な学習も取り入れており、統合的・発展的に課題を解決できるようにしてある。</p> <p>章の学習の最後に、「できるようになったこと」と「さらに学んでみたいこと」を設け、これまでの学習を振り返って、評価・改善できるようにしている。</p> <p>「数学的活動」のページでは、教科書左端に課題解決の進め方を示している。</p> <p>次に、教育出版について、章の入り口にはその章に関連する既習事項を確認する問題、出口では章で学習した基礎的・基本的な内容がまとまったページを設けている。</p> <p>事象を論理的に考察する力を養うために「友だちの考えを知ろう」「みんなで話し合おう」のラベルを付け、課題を話し合っ解決する場面を設けている。</p> <p>問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養うために学習感想の書き方の例を示し、学習感想を書かせる場面が設定されている。</p> <p>学習のめあてを明確にして数学的な課題解決につなげられるよう設定されている。</p> <p>次に、新興出版社啓林館について、「算数をふりかえろう」や本文中の「ふりかえり」マークで学習内容に関連する既習事項</p>
--	--	--

		<p>が取り上げられ、復習や学び直しをするように構成されている。</p> <p>数量や図形などの性質を見だし総合的・発展的に考察する力を養うために「学びを生かそう」が設定されている。</p> <p>「自分から学ぼう編」においては、「学びのあしあと」で主体的に学び直しができるようになっている。</p> <p>章末「数学ライブラリー」や「学びを生かそう」では日常生活や社会、他教科と数学の関わりを考えることができる題材を扱い、数学を様々な場面に利用する活動のよさを感じながら主体的に学習が進められるように設定されている。</p> <p>次に、数研出版について、身近な事象や明瞭簡潔な例を取り上げ、図や補足を用いた丁寧な説明で理解できるようにしている。</p> <p>「Q」や「TRY」において、解決の思考を対話形式で掲載することで、根拠を明確にして考えるように構成されている。</p> <p>章のとびらには身近な題材を扱い、各章や「数学旅行」で日常生活の中にある数学に着目した題材を取り上げ、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養うことができるようにしている。</p> <p>問題発見・解決の過程に基づき、学習内容を習得できるようにしている。それぞれの場面でポイントとなる箇所には、キャラクターたちの対話を記すことで数学的に考える資質・能力の育成を促している。</p> <p>次に、日本文教出版について、各章の直前や各小節の導入問題で既習事項を確認し、学びの連携を図ることで理解できるようにしている。</p> <p>「学び合おう」には表現のしかたを練り上げるために対話シートが用意されており、巻頭の「ノートのくふう」、巻末の「数学レポートをかこう」とあわせて表現力の向上が図られている。</p> <p>自己評価の充実のために、「数学の学習を始めよう！」でふり返りのポイント「ノートのくふう」でふり返りの記述例が丁寧に説明されている。</p> <p>巻頭の「数学の学習を始めよう！」と「学び合おう」をつなげることで、数学的活動の学びの流れをつかみ、学びを深めることで数学的に考える資質・能力を育成するように構成されている。</p> <p>教育長</p>
--	--	---

		<p>数学について意見はあるか。</p> <p>鹿山委員</p> <p>国語のところでも話題としてあがった本市の学力向上策についてであるが、教科書内容の難易度という観点で見ると、啓林館について、例えば連立方程式は、図を使ってわかりやすい、また、数学ライブラリーは子供の興味が湧くと感じたが、全体的に難易度が高いと感じた。</p> <p>岸田委員</p> <p>小学校の算数は、数だけで解けるが、中学校の数学になると理論で答えを導くことになる。例えば、「データの分布」について、東京書籍は、スナック菓子の販売数を、また、大日本図書は、読書時間を導入の問題とそれぞれ実生活を題材にし、数学の楽しさや良さを身につけさせようと工夫している。</p> <p>大久保委員</p> <p>領域ごとに各社の比較をしながら教科書を分析していた。たまたま「データの分布」が話題としてあがっているので、参考に他社についても感じたことを述べるが、例えば学校図書は、反復横跳びを導入の問題としている。まとめがていねいに記載されていて、どんなことがわかったか。また次の課題がわかる。付録のカードゲームも楽しませる工夫である。教育出版は、日常生活と社会を数学につなげる題材が多く、7月と8月の札幌の気温について、導入の問題としている。様々な例題が充実しているので練習にはなると思うが、たくさん問題から分析するので少しまとめにくいと感じた。</p> <p>教育出版や日本文教は索引に英語も記載されているが、通常の英語の訳と違い、数学分野の訳として、例えば、クラスは階級、サイドは、平面図形の辺、フェイスは多面体の面等、英語教育の発展にもつながる。</p> <p>飯塚委員</p> <p>生徒にとって使いやすい教科書かどうかという視点で見ていた。教育出版は、学年を超えた学び直しができるように、既習内容をまとめた「学びのマップ」が全学年巻末にあり、その学年の教科書が手元になくとも、いつでも振り返り、確認できるとこ</p>
--	--	--

		<p>ろがよいと思う。紙面デザインとして、補足の部分が見やすくわかりやすい。また、サッカー分析を例にあげ、数学がどのように役立っているかは生徒の興味を引く内容であると思う。</p> <p>啓林館は、タブレット活用学習のアプリ、コンテンツが使いやすく充実しており、動画やアニメーションに加え、フラッシュカードや暗記ペンは、生徒が自学自習しやすい。</p> <p>鹿山委員</p> <p>生徒が数学に興味をもつことは大切である。学校からの報告にあがっていたが、東京書籍は、全体的に色彩豊かで、見やすい構成となっている。学習課題が提示してあり、生徒が見通しをもって取り組みやすいとあった。生徒の使いやすさと、教員の使いやすさがマッチングすることが重要である。</p> <p>暗号と素数について、数研出版、学校図書で取り上げられており、数学理論が社会でどのように役立っているかはよいと思う。</p> <p>教育長</p> <p>次に、理科について、報告を求める。</p> <p>学校教育課主幹</p> <p>まず、東京書籍について、「これまでに学んだこと」で既習事項を確認し、單元ごとの「学習内容の整理」で重要語句などを復習し、「章末」問題や「確かめと応用」で繰り返し学習できるようになっている。</p> <p>観察・実験では、「結果の見方」と「考察のポイント」で、結果・考察の視点を示している。また、「Before & After」で、学習前後の考えを比較できるようにしている。</p> <p>「from Japan 世界につながる科学」で学習内容に関わる科学の話題を紹介している。また、楽器職人やパン職人の方などのインタビューを掲載し学習内容に関わる職業を紹介している。</p> <p>教科書の左下に「問題発見」「?」「仮説」「構想」「観察実験」「分析解釈」「検討改善」「!」「ふり返り」「活用」のマークがあり、探究の流れが確認しやすく工夫されている。</p> <p>次に、大日本図書について、「基本操作」を設け、観察や実験の基礎技能を習得させるようになっている。</p> <p>観察・実験では、「結果の整理」と「結果から考えよう」で、</p>
--	--	--

		<p>結果・考察の視点を示している。また、「話し合おう」では思考や表現する場面を示している。</p> <p>生徒が自ら探究に取り組めるよう、「私のレポート」「探究活動 課題を見つけて探究しよう」等で、その方法や結果例を具体的に紹介している。さらに「やってみよう」の項目があり、自然の事物現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うための工夫がなされている。</p> <p>観察・実験では「着目点」を示し、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験を行えるようになってきている。</p> <p>次に、学校図書について、「ふり返ろう・つなげよう」で既習事項を示し、「QR コード教材」で繰り返し復習させるようになっていたり、観察や実験の近くに「基礎操作」を設け、基礎技能を習得させるようになっていたりする。</p> <p>探究の過程の中で、特に力を入れた項目のある観察・実験は、「しっかり考察」「しっかり計画」「しっかり話し合い」などのタイトルがついている。</p> <p>各章のはじめに、その章で「できるようになりたい目標」を示しており、自然の事物現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うための工夫がなされている。</p> <p>単元末の「学びを日常にいかしたら」では、対話形式で日常生活の疑問などから設問につながる工夫がなされている。</p> <p>次に、教育出版について、「これまでの学習」「思い出そう」で既習事項を示し、単元ごとの「要点と重要用語の整理」で重要語句を復習し、「基本問題」や「学年末総合問題」で繰り返し復習させるようになっている。</p> <p>観察・実験では、「結果」と「考察」で、結果・考察の視点を示している。また、「話し合おう」では思考や表現する場面を示している。</p> <p>「やってみよう」「参考」「チャレンジ」のマークで、課題を見つける活動や、さらに調べていく活動などを示しており、自然の事物現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うための工夫がなされている。</p> <p>教科書の左側に「目的」「準備」「方法」「結果」のタグがあり、探究の進め方が確認しやすく工夫されている</p> <p>次に、新興出版社啓林館について、観察や実験の近くに「観察・実験のスキル」を設け、基礎技能を習得させるようになっている。</p>
--	--	--

		<p>観察・実験では、結果や考察の視点を示している。「探Q実習」や「探Q実験」、「表現してみよう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。</p> <p>観察・実験の最後に「探究のふり返し」があり、探究の過程を振り返り、残っている疑問や新たな課題を確認することができる。</p> <p>他では発展的な内容として深くは触れていない「身のまわりのものから発生する気体」実験を大きく取り上げている。既習事項をもとに実験計画を立てるところから行い、学習活動の充実を図る工夫がなされている。</p> <p>教育長 理科について意見はあるか。</p> <p>岸田委員 今回の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学校が臨時休業になり、時間が短くなったことは残念であるが、実験の時間は大事にしてほしい。各社とも掲載している実験時の安全面、器具の扱い方は大事な部分である。東京書籍では、巻頭に「ある中学生の1日を見てみると」では、毎日の生活のなかでふとした瞬間に気になることはないだろうか。そのなかには科学がかくれているかもしれない。という部分が印象的である。</p> <p>飯塚委員 各社とも、QRコードからウェブサイトに入ることができ、実験器具の使い方や実験などさまざまな動画を閲覧することができるなどの工夫がある。タブレットやスマートフォンがあれば家庭学習に十分活用できるのではないかと思った。 東京書籍は、A4化に軽量化されている点は良い。また埼玉県に関する資料が多かった。</p> <p>鹿山委員 そういったコンテンツを授業でもフル活用していただきたいものである。学校の報告書を見ると、1校しかQRコードの動画活用についての報告はあがっていなかった。他の学校にも活用してほしい。 東京書籍は、図も大きく見やすいが、どんなに効果の高い薬</p>
--	--	--

		<p>でも、水に溶けなければ何も飲んでいないのと同じことだという記載があったが、これについては言い過ぎだと思う。</p> <p>岸田委員</p> <p>日本は資源がないが、みんなの知恵がある。知恵を出して物を作りださないと日本は成り立たないという子供のときに聞いた言葉を思い出した。</p> <p>理科離れと聞くが、ものづくり、科学、理科はおもしろく、それらの上に私たちは生活している。子供たちがそういう視点に気づかせる教科書が大事である。</p> <p>大久保委員</p> <p>「理科離れ」ではなく「理科好き」な児童生徒を小・中の連携で育てていかなければならないと私も感じる。東京書籍のサイズも良く、表紙の問題提起はインパクトがあり、疑問から調べること実験することで理科好きの生徒がうまれる。「学んだことをつなげよう」はよいと思った。その章で学習したこと全体を結びつけて考えるようにしてあり、自然の事物現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うための工夫がなされていた。</p> <p>教育長</p> <p>次に、音楽について、一般、器楽の順に報告を求める。</p> <p>学校教育課主幹</p> <p>まず、音楽（一般）、教育出版について、曲想と音楽の構造、歌詞の内容、曲の背景、音楽の特徴との関わりを踏まえ「主要教材」による学びを基盤にして「比べてみよう」「深めてみよう」を活用することにより知識や技能が身に付けられるように配慮されている。</p> <p>他者と協働しながら表現を工夫したり音楽や演奏のよさや価値を考えたりする学習のために、キャラクターによって具体的な内容を示したり「話し合おう」で考えを交流できるようになっている。</p> <p>「Let's try!」では、我が国の伝統音楽を学習する際に、唱歌や伝統的な歌唱、箏を演奏するなど表現と鑑賞の関連を図った体験活動ができるように工夫されている。</p>
--	--	--

		<p>創作教材「音のスケッチ」では、学習内容と具体の活動をわかりやすく示し、リズムや旋律をつくったり、音を音楽へと構成したりする楽しさを体験できるようになっている。</p> <p>次に、教育芸術社について、学習指導要領の内容及び楽曲の性格に即して、ねらいを明確化した教材が配列されており、「学習目標」「活動文」「音楽を形づくっている要素」を各教材に設定し、一目でわかるように示している。</p> <p>知覚・感受したことをもとに「思考・判断・表現」を行うためのヒントをキャラクターの吹き出しで示すほか、思考した内容を記述する場面を設定したり、ワークシートを掲載したりするなど手順が分かりやすく示されている。</p> <p>我が国や郷土の伝統音楽の唱歌や伝統的な歌唱を歌ったり、「指揮をしてみよう！」では鑑賞曲や歌唱曲を聴きながら指揮をしたり、リズムを打ったりする体験活動を取り入れ、実感を伴って理解できるように工夫されている。</p> <p>歌唱教材は生徒の心情的な発達の段階に沿ったものであり合唱曲の編成、各パートの音域など学年に応じて考慮されている。また、基礎的な学習内容を確認する「My Voice！」が配置されている。</p> <p>続いて、音楽（器楽）、教育出版について、各楽器の基本的な奏法が身に付けられるよう「学びのねらい」「学びのポイント」が明記され、身に付けた技能を生かして「まとめの曲」が表現できるよう工夫されている。</p> <p>「何が同じで、何が違う？」のページでは、吹く楽器と弾く楽器について共通性や固有性を考え、特徴を理解することができるよう書き込み欄が設けられ、話し合う場面も設定されている。</p> <p>「吹く楽器」「弾く楽器」「打つ楽器」のまとめりで、我が国や諸外国の音楽文化の理解を意図した教材が提示されている。</p> <p>各楽器の音色や響きと奏法との関わりを踏まえ、基本的な奏法について、手順を追って取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>次に、教育芸術社について、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な技能を身に付けられるよう、冒頭に器楽表現の工夫をする「アンサンブルセミナー」を配列し、次にそのために必要な技能を習得するための教材が設定されている。</p> <p>「思考・判断・表現」を行うためのヒントをキャラクターの吹き出しで示すほか、思考した内容を記述する場面や「深めよう！</p>
--	--	---

		<p>音楽」のコラムでは、表現活動を通して思考力・判断力を育む場面も設定されている。</p> <p>学習の見通しを持つことができる「学びの地図」や考える視点を示すキャラクターやコラムが設定され主体的に学習を進められるよう工夫されている。</p> <p>各楽器とも、平易な練習曲から学習が進められるようになっている。また、アンサンブルの教材では、様々な楽器編成に対応できるよう編曲上の工夫や楽器の編成を選択できるように設定されている。</p> <p>教育長</p> <p>音楽全般について意見はあるか。</p> <p>大久保委員</p> <p>昨年の小学校教科用図書採択の時もそうであったように、中学校においても教育芸術社は、合唱曲の選択がよいと感じた。旋律だけではなく、伴奏譜も多く取り上げられている。音感を治す指導が図で音の高低差が掲載されているが良い。身近なものでリズムを覚える教材も良い。また、教育出版は、教材が充実しており、専門的に音楽を学べる工夫がされていると感じた。鼻濁音の指導方法、中1のくいしんぼうのラップは興味深い。行動記号が多く取り上げられ、リズムを変えるアレンジ方法が取り上げられている。</p> <p>岸田委員</p> <p>文部省唱歌など、昔親しんだ歌が復活している。日本のすばらしい歌に親しんでほしい。卒業式に歌う、「仰げば尊し」もいいが、特に「旅立ちの日に」は感動的である。コロナの影響で合唱ができない状況であるが、普段の生活で口ずさんでほしい。</p> <p>鹿山委員</p> <p>新学習指導要領の「カリキュラム・マネジメント」教科横断的な指導の可能性の視点から、教育出版は、発展的な内容を取り上げていると感じた。「音」ってなあにや音の三要素PART 1やPART 2は興味深い。ものの振動、空気、水の振動で音が鳴ることや、その振動が空気を通して耳に伝わる現象が「音」であることの説明がされていたのが興味深い。</p>
--	--	--

		<p>音楽の言語活動として、曲を聴いての感想文では不十分で、曲を感じたことの根拠を書くこと、それを人に伝えることが重要である。つまりなぜそう感じるのかという事。そのためには、楽譜にはどう表現されているか。作曲家の境遇や時代背景はどのようなか。ほかに同時期どんな曲を作ったのかも大切である。</p> <p>そういった観点で見ると、教育芸術社の「指揮をしてみよう」は「運命」を友達の指揮に合わせて、冒頭のリズムを手拍子で打ったり、言葉を付けて歌ったりしようという部分が良い。</p> <p>「運命」は最も指揮が難しい曲の一つで、特に冒頭部分が難しい。なぜなら曲の出だしが8分休符で次の瞬間フォルテッシモで始まるから。だからみんなで合わせることの大変さや緊迫感が体験できるのはよい。</p> <p>大久保委員</p> <p>私は、仕事で音楽を指導しているが、ただ演奏するだけ、歌うだけでなく、聞いた子供にどう影響するかである。作者からのメッセージが子供たちの不安、希望や夢などに伝わればいい。音楽科で国際理解教育も可能である。器楽合奏について、そのような視点で教科書を見ていた。我が国や郷土の伝統音楽の曲数や諸外国の音楽の曲数について、教育出版は、我が国の伝統音楽が24曲、教育芸術社は17曲。諸外国の音楽は教育出版が34曲、教育芸術が28曲。あくまで、曲数の多い少ないではなく、内容や学ばせ方であると思う。</p> <p>飯塚委員</p> <p>取り上げている楽器の種類別の数についても教科書を見るととても興味深かった。和楽器は、両社とも同じ9程度。諸外国の楽器になると、教育出版の5に対して、教育芸術社は打楽器で12に加え、電子楽器についても扱っていた。楽器の種類別の合計数は、教育出版が20、教育芸術社が32の取扱いであったと思う。</p> <p>教育出版の篠笛の部分の新しい音という部分の内容が良かった。本市の生徒にとって音楽を学ばせる上で一番合う教科書を決めていきたい。</p> <p>教育長</p> <p>次に、美術について、報告を求める。</p>
--	--	---

		<p>学校教育課主幹</p> <p>まず、開隆堂出版について、題材ごとのページで用具・材料・技法を図版・写真で示し、表示・マーク等で注釈し、さらに巻末資料で手順などを加えて詳細をまとめ、基礎的・基本的な知識・技能が身に付くよう工夫されている</p> <p>作者自身の言葉、生徒や作家の制作過程や作品解説など、表現を支える情報を精選・整理して掲載し、発想・構想、鑑賞の場面で思考力、判断力、表現力等の育成が促進されるよう工夫されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメント、小・中学校の系統性や生涯学習を意識し、題材ごと欄外に他の教科等との関連を、1年の初めに図画工作、3年の終わりに生涯学習との関連を示し、教育課程全体で総合的に「生きる力」の育成につなげられるように工夫されている。</p> <p>制作過程や用具・材料・技法が生徒の視点に立って説明され、学年に応じて系統的に示されており、生徒個々が創意工夫し美しく表現したり、自身の感じ方で鑑賞したりするための配慮が見られる。</p> <p>次に、光村図書出版について、各題材のページに巻末資料へのリンクマーク（リンク先のページ番号）を付し、題材に応じた用具・材料・技法を参照して基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるよう工夫されている。</p> <p>生徒や作家の発想の仕方等を写真・図版や文章で紹介して発想・構想、鑑賞する上でのヒントをマークや文字圏で示し、思考力、判断力、表現力等の育成が促進されるよう工夫されている。</p> <p>題材ごとに総括的な目標を短文で示し、チェック欄を設けて振り返りができるようにしたり、ヒントをマークで示したりすることで、主体的に学習に取り組む態度を養う工夫をしている。</p> <p>多様な表現方法を紹介し、題材によって紙質や体裁を変化させ、多様な使い方ができるようになっており、自分のイメージに応じた表現方法を見付け、選択することができるよう配慮されている。</p> <p>次に、日本文教出版について、各題材のページに写真・図版で活動に直接関わる用具・材料・技法を数多く示し、巻末資料においてもふんだんに情報を掲載して基礎的・基本的な知識・技能を理解し身に付けるように構成されている。</p> <p>各題材で生徒や作家の言葉を掲載するとともに、それを創造</p>
--	--	--

		<p>活動に生かすために造形的な視点からの問い掛けを示すことで、思考力、判断力、表現力等の育成が促進されるよう工夫されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメント、小・中学校の系統性を意識し、題材ごと欄外に道徳科との関連を、1年初めに図画工作を示すほか、巻頭のオリエンテーションのページで生涯学習との関連について学ぶことができる内容構成・配置となるよう工夫されている。</p> <p>題材ごと、ヒントとなるコーナーや資料がふんだんに提示されており、各ページを閲覧する中で、生徒個々が多様な表現・鑑賞の仕方があることに気付き、選択して学習できるよう配慮されている。</p> <p>教育長 美術について意見はあるか。</p> <p>鹿山委員 開隆堂は鑑賞の題材設定を多く取り入れていた。例えば1学年では、「伊藤若冲の世界」「私にとってつくること」「あつたらいいなを形に」「機能と美しさの調和」「祭りの造形」。光村図書出版や日本文教出版も1学年ではそれぞれ5題材であるが、2・3学年になると開隆堂がその3倍くらい多く設定されていた。</p> <p>岸田委員 小学4年生くらいまでは、子供たちは感動が表面に出た良い絵を描く。その後は、本物に近く描こうといい感情を押し殺してしまう。それを乗り越えるため、中学生では技術面を養っていきたい。開隆堂は、いろいろな作家を扱う中で、美術のすばらしさ、感動が感じさせるものである。</p> <p>日本文教出版は、アニメーションという身近に感じる、また生徒の作品も身近で親しみやすい。</p> <p>大久保委員 作品の種類についても教科書をみると各社で特徴がある。日本文教出版は、アニメーションや生徒作品を数多く掲載している。見開きで生徒がなぜそれを描こうと掲載され、これから作品を描く意欲につながると感じた。光村図書出版は諸外国の美</p>
--	--	--

		<p>術作品の数が1番多かったように感じた。トレーシングペーパーが付属され、活用できる点も良い。生徒一人一人のニーズに対応しているとも感じた。どの作品もある程度バランスよく扱っていたのが開隆堂という印象である。</p> <p>飯塚委員</p> <p>開隆堂は、学校からの報告にも、「古典から現代アートまで幅広く美しい作品が掲載されている。制作の目標やポイントの表示は相変わらずわかりやすい」という内容のことが書かれていた。なじみやすい教科書は教える教員にも好ましい。</p> <p>鹿山委員</p> <p>学校からの報告書に、光村は、作品を大胆に配置し、子供が見入るような楽しそうな構成である。QRコンテンツでは生徒の作品などを360度動かして見られるものがあった。作品をどの角度からでも鑑賞できるのは魅力的であると思う。</p> <p>教育長</p> <p>次に、保健体育について、報告を求める。</p> <p>学校教育課主幹</p> <p>まず、東京書籍について、「見つける」「課題の解決」「広げる」の3つに学習ステップが分けられ、学習を進めやすくする工夫が見られるとともに、章末資料では、学習した知識から思考力をさらに広げさせる問いがあり、調べたいことや日常生活に生かすための意欲喚起につながられている。</p> <p>知識の「習得」や「活用」をする項目があり、話し合ったり、深めたりする学習活動を意図的に設定することで、思考力・判断力・表現力等を育成する内容となっている。</p> <p>ロールプレイングやブレインストーミング形式の授業形態に役立つ教材が豊富にあり、知識や思考を広げ、深めることができるように工夫されている。</p> <p>科学的に理解するために、多様な視点から物事をとらえられるよう、学習内容と関連が深い話題「読み物」を掲載し、理解を深めることができるように工夫されている。</p> <p>次に、大日本図書について、小单元において、キーワードで学習内容の振り返りができ、章末では重要語句や要点の確認がで</p>
--	--	--

		<p>きるようになっているとともに、イラスト等の資料や写真をふんだんに取り入れ、技能の習得に役立つ工夫がされている。</p> <p>「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」の項目で活動場面を示し、思考力・判断力・表現力を育成する内容になっている。</p> <p>導入の段階で、生徒の興味・関心を高めるための図や挿絵があることや、口絵では、生徒が保健体育を学習する重要性を理解できる内容になっている。</p> <p>章末の「学びを活かそう」では、記入欄に自らの考えを書き込むことができ、生活化につながる課題が設定されている。</p> <p>次に、大修館書店について、イラストや図が多く、視覚的に知識と技能の習得ができる工夫がされており、本時の学習課題を「きょうの学習」に示すことで、ねらいの明確化が図られ、学習の見通しがもてるような工夫が見られる。</p> <p>学習の中心となる学びを深める活動において、話し合ったり、発表し合ったりできる課題を問いとして示すことで、さらに学習したことを広げたり、深めたりする活動につなげやすい。</p> <p>興味、関心のある運動、スポーツに関する話題や中学生にかかわる健康課題を積極的に取り上げることで、主体的に取り組む態度を育む工夫がされている。</p> <p>「コラム」や「保健の窓」で著名人の話や身近な話題にふれており、知識を発展させ、実生活につなげることができるように工夫されている。</p> <p>次に、学研教育みらいについて、章末の「章のまとめ」では、單元ごとに確認問題があり、「振り返ろう」「確かめよう」「生かそう」の3つ項目に分けて学習の振り返りがしやすくなっている。</p> <p>全体で、課題解決学習を通して、思考力・判断力・表現力等が育成されるようになっている。「考える・調べる」では、自身の生活を振り返り、話し合い学習につなげることができるように工夫されている。</p> <p>事例や情報などの問いから、学習する課題を発見しやすく、興味・関心をもたせる工夫がみられる。</p> <p>ほとんどのページの下欄に「情報サプリ」としてワンポイント知識が掲載され、学習内容を補足する役目を果たしている。</p> <p>教育長</p>
--	--	--

		<p>保健体育について意見はあるか。</p> <p>岸田委員</p> <p>各社とも学習内容の配分などについては、そう大きな特徴はみられなかったが、発展的な内容の取扱いについて、各社でそれぞれ特徴があった。東京書籍は、心理、ドーピング、LGBT、また表紙の障害者のバスケットボール選手が印象的である。来年に延期された東京オリンピック・パラリンピックの掲載はタイムリーな教材であると感じた。</p> <p>飯塚委員</p> <p>大修館書店は、スマホ首と疲労についてが興味深い。現在の生徒は、80%以上でスマホなどの情報端末機器を所有していると何かの資料等で目にしたことがある。スマートフォン等の長時間使用による、ストレートネックの問題を説明しており、現代の中学生にとっての課題を扱っていてとても良いと思った。</p> <p>鹿山委員</p> <p>そういった観点では、学研教育みらいの教材も興味深い。現在新型コロナウイルス感染症が拡大しており、自助・共助・公助からそれぞれの立場で感染防止策に努めているが、まるで新型コロナウイルスを予言していたかのように、動物由来感染症(ズーノーシス)を取り上げており、主な動物由来感染症の説明を記載し、気を付けるべきことを示しているのは興味深い。</p> <p>加熱式たばこや電子たばこの害についても取り上げてほしい。</p> <p>喫煙禁止や飲酒禁止について同じページに「未成年」という言葉と「20歳未満」という言葉が混在している。「20歳未満」に統一してほしい。</p> <p>大久保委員</p> <p>保健体育分野では、環境や自分の身体のしくみを理解し、適切な知識を学習しながら、行動できる力を育成することが大切である。昨年度の台風19号は、行田市内の被害も報告されている。これからは災害が多くなることが予想され必要な学習である。保健体育分野の領域から東京書籍については、教材の扱</p>
--	--	---

		<p>う分量が一番多かった。</p> <p>飯塚委員</p> <p>タイムリーな話題という観点で申し上げますと、オリパラ関連では、大日本図書が特に扱う教材の分量が多かった。</p> <p>教育長</p> <p>次に、技術・家庭について、技術分野、家庭分野の順で報告を求めます。</p> <p>学校教育課主幹</p> <p>まず、技術分野 東京書籍について、各編とも冒頭に「目標」を示し、「原理・法則と仕組み」「問題解決」「社会の発展」の流れで構成されている。学習の見通しを持つことができるとともに、主体的に問題の発見と問題解決に取り組めるようになっていく。</p> <p>生徒が問題解決に取り組めるように「問題の発見、課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「評価、改善・修正」の流れがどの内容でも同じように示されている。</p> <p>適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、「最適化の窓」「技術の工夫」という欄を設けて、さまざまな制約条件のもとでの最適化の方法が示されている。</p> <p>巻末では、技術分野の学習を通して、学んだことがこれから生活や社会でどのように関わり、活用されていくのかについて知ることができる。</p> <p>次に、教育図書について、「技術ハンドブック」では技能の習得に関わる資料がまとめられ、学習内容に応じて活用できるように工夫されている。</p> <p>各内容とも問題発見から「基本的な知識と技術の工夫」、「設計・計画」、「製作（制作）」までの流れがステップで分けられ、手順が分かりやすい。</p> <p>「スゴ技」「技ビト」など、学習内容と社会のつながりが分かる資料が用意され、適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫がされている。</p> <p>消費者、防災、環境、衛生などのマークを使用すること、技術との関わりについて考えを深めやすい工夫がされている。</p> <p>次に、開隆堂出版について、科学的な根拠やしぐみができる</p>
--	--	---

		<p>記述やイラストをいれ、知識技能を理解・習得しやすくしている。さらに、学習のまとめりごとに「学習の目標」「ふり返り」を設けて、自己評価をしやすい。</p> <p>問題発見から評価・改善までの流れをわかりやすく示し、生徒自身が問題解決に取り組めるようになっている。また、実習例の問題発見から問題解決までの流れにおいて、吹き出しや、図を使いながら生徒の創造力を膨らませるような工夫がされている。</p> <p>制約条件を明確にし、育んできた見方・考え方を働かせながら、技術を最適化するための思考の流れが示されており、生徒が自主的に考えを深めることができる。また、「参考」や「課題」が示されており、学習をより深める手立てとなっている。</p> <p>「環境マーク」を付して、環境についての意識を高め、循環型社会の理解に対応していけるようになっている。</p> <p>続いて、家庭分野 東京書籍について、身に付けさせたい知識・技能を「いつも確かめよう」にまとめて掲載したり、各節の最後に「まとめ活動」を設けたりする等、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫がされている。</p> <p>ガイダンスでは、問題解決的な学習を重視した学習の流れを具体例と共に示し、各編の導入では、見方・考え方の例を示すなど問題解決に生かせるようになっている。</p> <p>自分の生活を定期的にチェックできるようになっており、何ができて、何ができていないのかを確認して、学習のまとめなどから自分や家族の生活で改善できることを記入できるようになっている。</p> <p>学校の実態や個に応じた、選択できる実習例が実習時間や難易度、手順と共に掲載されている。</p> <p>次に、教育図書について、「キーワードチェック」欄での重要語句、実習動画（まつり縫い、ミシンの使い方、調理手順）での技能確認、章末のまとめでの学習の振り返りで、基礎的・基本的な知識・技能の習得を確認できるようにしている。</p> <p>実習題材は、基本の作り方や「私のアレンジ」をもとに、生徒一人一人が自らの課題に合わせて工夫し、創造しやすくなっている。</p> <p>学習の導入での「自立度チェック」、時間ごとに学習を評価する「私の学び」、章末には「学んでよかったこと」「これからの生活でどのように生かしていきたいか」を自分の言葉でまとめ、</p>
--	--	--

		<p>自分の学習を確認できるようになっている。</p> <p>ロールプレイング等の実践的・体験的なワークや「話し合ってみよう」「調べてみよう」等の活動例が掲載されている。</p> <p>次に、開隆堂出版について、デジタルコンテンツには、実習動画（まつり縫い、ミシンの使い方、調理手順）があり、小学校での技能も含めて参照し、技能の習得に向けた練習ができるようになっている。</p> <p>「話し合ってみよう」「考えてみよう」「発表しよう」等の学習活動例があり、対話の中で考えを明確にし、広げていけるようになっている。「生活にいかそう」では、実生活に即した学習を総合的に考える課題例が掲載されている。</p> <p>学習の「振り返り」や「学習のまとめ」では、学習したことをどのように工夫し、生かしていけばよいかを記述したり、感じたことを深めて自分の考えを書いたりする等、自分の学びを確認できるようになっている。</p> <p>「やってみよう」「体験活動」では、実験や調査、ロールプレイングやグループワークの様子等の活動例が掲載されている。</p> <p>教育長 技術・家庭全般について意見はあるか。</p> <p>大久保委員 技術は、ものづくりなどを実際に行いながら体験的に学ぶことが楽しい教科であると思う。ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動について取り上げている箇所について各会社の特徴を見てみたが、特に教育図書が一番多く写真が多く、見やすくまとめられていた。家庭の東京書籍では、ページをめくると右側の料理やマイバック等の写真が目を引いた。作ってみたいという気持ちになる。</p> <p>岸田委員 技術は物を切ったり、削ったり、穴をあけたりというイメージだが、東京書籍では農業や栽培技術が大きくとりあげられている。農業は生きるための根源的な部分である。</p> <p>鹿山委員 持続可能な社会づくりの扱いについては、東京書籍と開隆堂</p>
--	--	--

		<p>がそれぞれバランスよく扱われていた。</p> <p>飯塚委員</p> <p>開隆堂は、持続可能な社会の構築に向けた取組をデータや資料によって示すとともに、「探究」などのマークを使用し、実践的な態度を養うための工夫がされている。と調査員の報告にも書かれている。</p> <p>岸田委員</p> <p>持続可能な社会づくりの扱いについては、非常に大切である。東京書籍や開隆堂は、バランスよくそういった観点での教材が配置されていた。「食物自給率、食品の廃棄」等について現代社会の問題点であり学習しておくことは必要である。また、左ききの配慮も掲載されていた。</p> <p>鹿山委員</p> <p>家庭分野では、職業観・勤労観に関連する内容の取り上げ方の工夫が各社見られた。特に私は、東京書籍の「プロに聞く！」というコーナーがよいと感じた。家庭分野の学習に関連した仕事に就く方からの学習を深めるアドバイスや中学生へのメッセージが掲載されている。クリーニング師、危機管理アドバイザー、消費生活アドバイザー、染色職人等が記載されており、生徒にとって職業体験学習へとつながるよいコーナーである。</p> <p>開隆堂で、米ぬかに含まれている栄養成分（ビタミンB1）をを発見しオリザニンと名づけた鈴木梅太郎氏が掲載されている。ビタミンよりに発見して事は、日本人としてぜひ知ってもらいたい。</p> <p>教育長</p> <p>次に、外国語について、報告を求める。</p> <p>学校教育課主幹</p> <p>まず、東京書籍について、Grammar for Communicationでの文法の説明が丁寧である。Use、Form、Let's Tryと系統立てていて、生徒にとって理解しやすい構成になっている。また、リスニングや小学校で学習した表現から始まり、復習をしながら基礎・基本の定着が図れる工夫がある。</p>
--	--	--

		<p>Scene 1、Scene 2の後の「Read and Think 1、2」のパートにおいて、やや長めのまとまった英文を読み、それについての設問に答えるという流れで理解を深める中、手順を追って自分の力で英文を理解しようとする姿勢や能力を育成する構成となっている。</p> <p>環境、伝統、多様性など、人権への配慮や相手意識をもって伝えることを大事にしている。また、他教科の内容を英語で学ぶことができる内容となっている。</p> <p>Stage Activityにおいて、既習の英語表現を用いて、「書くこと」「話すこと」の活動に挑戦でき、復習と発展を兼ね備えた構成となっている。</p> <p>次に、開隆堂出版について、Sceneで新しい表現を導入し、簡単な活動で理解することができるような工夫がある。また、コンパクトにまとめてあるため、ポイントが絞りやすく、新出文法事項の定着が図りやすい。</p> <p>学年が上がるにつれて、英語で表現する以前に、自分なりの考えをもたなければならない場面が増えていくため、思考力や表現力を高める構成となっている。また、習得した英語表現を使って、テーマに沿った考えを伝えなければならないため、表現力を高める構成となっている。</p> <p>プログラムごとにGoalが設定してあるので、何ができるようになるかよいか明確である。</p> <p>1年生の時からずっと、Interactのパートで自己表現したり、仲間とやりとりしたりする活動があるため、学年が上がり文法事項が複雑になっても、同じような感覚で躊躇なく活動ができ、力を伸ばすことができる構成となっている。</p> <p>次に、三省堂について、Use Readのパートで長めの説明文に挑戦することで、段階を踏んで着実に知識を定着させるような仕組みになっている。USE（読解文）のSTAGEが3段階になっており、英問英答や本文の要約で単語の穴埋め等の内容理解をするコーナーがある。STAGE 3では、自分で考えて英語で意見を書くなど、自己表現のコーナーがある。</p> <p>Get Plusのコーナーで、実際のコミュニケーションを意識した会話を練習できる工夫がある。</p> <p>題材が異文化理解、伝統文化、文学、自然科学など多岐にわたり、英語の学習をしながら、様々なジャンルへと視野を広げ、教養を深めることができる。</p>
--	--	--

		<p>Take Action では、よりコミュニケーションな場面設定で、「聞く」「話す（やりとり）」活動を行えるため、実践に直結する楽しさを味わいながら活動できる仕組みになっている。</p> <p>次に、教育出版について、Part ごとに Tool Kit でパターンプラクティス、そして Listen のコーナーで聞き取りを行うことで、基本文の定着がしっかり図れる流れになっている。また、巻末の Activity Plus では、赤シートを使用し、繰り返し学ぶことができる工夫がある。</p> <p>3年生は Debate のコーナーがあり、自分の意見を持ち、思考力を高める構成となっている。また、Project のパートでまとまった英文の作文に挑戦することで、既習事項の活用を通して、表現力を高める構成となっている。</p> <p>日常生活や身近な話題から社会や将来を考える内容が多い。また、他教科で学ぶことや行事との関連性が高い。</p> <p>Review や Task のパートで、教科書本文の読み取りに焦点を当てた活動ができるため、長文読解の基礎を作り、コツをつかむ工夫がある。</p> <p>次に、光村図書出版について、3年間を通してひと続きのストーリーとなっている。Let's Read の英文量が多めで、まとまった分量の文章が読むことができるような構成となっている。題材も多岐に渡っており、読んでいて楽しくなりそうな題材が多い。</p> <p>使用場面が学校生活、旅行、ALT の先生の国のことなど、生徒の身近に起こりうる自然な設定になっており、会話がイメージしやすい。日記やメール、紹介文やインタビュー、記事など様々な形式が用意されている。</p> <p>巻末の Active Words のパートを活用することで、語彙が増え、表現の幅を広げやすい。「もっと知りたい。もっと表現したい。」という生徒の気持ちを満たし、さらに力を伸ばそうとする仕組みになっている。</p> <p>Listen、Speak、Write の活動が、それぞれ Unit に盛り込まれているため、毎回同じ流れで効果的に、定着を図れるような工夫がある。</p> <p>次に、新興出版社啓林館について、スモールステップによる学習場面の設定がされており、無理なく幅広い知識が得られる仕組みとなっている。また、絵を見ながらパターンプラクティスを行うことで、視覚で場面を捉えながら英文を発音し、ター</p>
--	--	---

		<p>ゲットとなる文章（新出文法）の定着を図りやすい構成となっている。</p> <p>場面、状況に応じて即興で対応する場面を多く取り入れている。また、伝えたい内容を考え、何が適切かを判断し、分かりやすい英語で表現するような活動が多い。</p> <p>Unit ごとに Goal が設定してあるので、何ができるようになればよいか明確である。</p> <p>Let's～のコーナーでは、話す、聞く、読む等の技能に特化したコーナーがあり、各技能を向上させる構成となっている。</p> <p>教育長</p> <p>外国語について意見はあるか。</p> <p>岸田委員</p> <p>教育出版は、小中学校の学習の接続という観点から工夫が感じられた。例えばキャラクターの多用や聞き取って答える、その次の文字の段階などネームカードや赤いシートを用いるなど外国語に親しませる工夫を感じる。</p> <p>鹿山委員</p> <p>本市は今まで、学校図書の教科書を使用しており、本市の生徒にはそのレベルの内容が一番合っていると聞いているが、今回でていないのが気になった。</p> <p>岸田委員</p> <p>学習指導要領には、コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、外国語で伝え合う、また、主体的にコミュニケーションを図るとあり、各社ともこれらを大切にしていることが伝わった。本市のこれまでの経緯を踏まえ、考えていくべきである。</p> <p>大久保委員</p> <p>東京書籍や三省堂は、関係副詞や分詞構文、使役動詞などを扱っており、発展的で難易度が高いと感じる。</p> <p>東京書籍は、主語、動詞を青色、赤色と目で見えて、疑問文などの変化がわかりやすい。読む聞く書くが見開きで学べるようになっており、生徒は確認しやすい。</p> <p>三省堂は、手をたたきながら音声を確認したり、覚えるコツ</p>
--	--	--

		<p>として掲載している点が良い。QRコードで発音が確認できるが通じないことが多いと感じる。どちらも辞書の使い方が多く掲載されており、辞書で発音をつかめるという点も良い。</p> <p>飯塚委員</p> <p>小学校外国語科との円滑な接続のための工夫として、光村図書出版は、1学年では小・中接続单元において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定するとともに、Unit3 までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に文字に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続单元の新出語の一覧を掲載していたり、各学年の Word List には、小学校で習った語が分かるよう記号が付けられていたりしていたのが良いと感じた。広がる深まる学びにおいて、世界の中学生の生活が紹介されており、生徒たちの興味を引き、親しみやすいと感じた。</p> <p>鹿山委員</p> <p>啓林館も1学年では小・中接続单元において、アルファベットを読み書きしたり、「小学校の思い出」や「中学校でしたいこと」についてやり取りしたりするなど、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定している。こういう観点は良い。</p> <p>三省堂、東京書籍は筆記体が掲載されている点は良い。</p> <p>光村図書出版は、Active words では、How are you?に対する答えに多くの気持ちや状態が掲載されており、考えて話す部分が大切にされている。</p> <p>教育長</p> <p>次に、特別の教科 道徳について、報告を求める。</p> <p>学校教育課主幹</p> <p>まず、東京書籍について、各教材冒頭にテーマが示され、最後の設問に示された問いを通して考える構成になっている。発問は「考えよう」「自分を見つめよう」の2段階で構成されている。これによって道徳的諸価値の理解をもとに、人間としての生き方を考える学習活動が体系的になされるよう工夫されている。</p> <p>3教材を連続して構成する「いじめ問題対応ユニット」と「生命尊重ユニット」を設けて重点的に取り扱っている。一つのユ</p>
--	--	---

		<p>ニットには読み物資料だけでなく詩や漫画、絵画資料などの多様な教材を用い、多面的・多角的に学習できるようになっている。</p> <p>3年生では職業紹介のページを設け、進路指導との関わりを持たせるなど、中学校卒業後への接続を工夫している。</p> <p>話すことが苦手な生徒でも、心の葛藤を可視化して相手に伝えることができるよう、巻末付録に心情円が設けられている。また、ホワイトボード用紙も付され、話し合い活動で活用できるようになっている。</p> <p>次に、教育出版について、巻末の「道徳の学びを記録しよう」では学習したことを1時間ごとに記録できるようになっている。また、「道徳の学びを振り返ろう」では学期末や学年末に教材ごとに振り返りができ、自分の学びや成長を振り返ることができるようになっており、道徳的諸価値の理解を深めていくことができる。</p> <p>「生命の尊さ」と「いじめや差別のない社会」の2つのテーマで複数の教材やコラムをまとめ、ユニット化を図っている。これにより多様な教材から多面的・多角的にテーマを深められるようになっている。</p> <p>「生命の尊さ」など、重点項目について発達段階に合わせて切実に感じる教材を設けるとともに、内容に系統性を持たせている。</p> <p>役割演技を取り入れたり、日々の体験を想起して話し合ったりすることを通して、道徳的行為や習慣に結びつけるための「やってみよう」のページが設けられている。</p> <p>次に、光村図書出版について、はじめの教材に「道徳の授業を始めよう!」、最終教材に「道徳の学びを振り返ろう」を設け、1年間の見通しをたてたり、自己の成長を振り返ったりすることができるようになっている。</p> <p>いじめ問題と情報モラルに関わる内容について、全学年で取り上げ、生徒たちの身近で起こりそうな場面を通して、自分事として捉え直すことができるように設定されている。</p> <p>3つのシーズンは「学びのテーマ」に応じて複数の「ユニット」で構成されており、巻末にある「この教科書が目指した〇年生の姿」に向かう構成となっている。</p> <p>教材の末尾に「道徳的な問題を明らかにする問い」と「道徳的な価値についての理解や自覚を深める問い」が設定されている。</p>
--	--	--

		<p>他にも多面的・多角的な見方や考え方ができる問いや他教科や日常生活に関連付けて考えられる問いが設けられている。</p> <p>次に、日本文教出版について、教材と「道徳ノート」の二冊構成にすることによって、自己の心の成長や変容を記録し、実感したりすることが容易にでき、生徒の主体的な学びを促す工夫がされている。また、他者や自己との対話によって理解した道徳的価値について書き留めることで、より多面的・多角的な理解ができるようになっている。</p> <p>社会参画や勤労に関わる項目について「よりよい社会のために」ユニットを構成して複数教材を取り扱っている。</p> <p>各学年のテーマを、第1学年から「新しい自分と『である』」「人との関係を『みつめる』」「よりよい人生を『ひらく』」と発達の段階に応じて設定し、教材を配列している。</p> <p>「道徳ノート」に自分の考えを書き込む箇所のほかに友人の意見を記入する箇所を設け、話し合い活動を充実させるとともに、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。</p> <p>次に、学研教育みらいについて、巻末の「学びの記録」では、授業での学習を自分で振り返ることができ、1年を通じた心の成長を実感させ、これからの生き方を考えることができる構成になっている。</p> <p>いのちの教育を重視し、「生命尊重」と「いじめ防止」に関する題材を、多用に取り扱っている。特設ページ「クローズアッププラス」を設け、メンタルトレーニングやアンガーマネジメント、自己肯定感といった直接的な内容についても記載している。</p> <p>情報社会でよりよく生きるための基となる考え方や態度の育成に重点が置かれており、情報モラルについて発達段階に合わせて1年生は「生活習慣」、2年生は「コミュニケーション」、3年生は「情報の発信者、受け手として」をテーマとしている。</p> <p>冒頭に教材の内容を整理するための問いかけがあり、生徒の興味を引き出すとともに、内容を簡潔にし、話し合いに十分に時間をとることができるようになっている。</p> <p>次に、廣済堂あかつきについて、本冊「中学生の道徳」では、教材をもとに考える主体的・対話的な学習を通して人間としての生き方について考えを深め、別冊「道徳ノート」では、書くことを通して道徳的思考を深め、道徳的価値の理解を確かなものにしていく。</p> <p>自立した人間として他者とともによりよく生きる基盤となる</p>
--	--	---

		<p>道徳性を育むために、「生命尊重」と「いじめ防止・人権尊重」を重点的に扱っている。</p> <p>別冊のノートには、学期や年間の区切りに活用できる振り返りのページがあり、自分の心に残った授業や教材、自身の成長を見つめることができる。</p> <p>各教材にある「考える・話し合う」には学習のめあてを示し、内容項目でまとめられた「道徳ノート」との相乗効果により考えを深めることができる。さらに、問題解決的な学習や、体験的な学習を促す教材を掲載し、多様な指導方法に対応できるようになっている。</p> <p>次に、日本教科書について、各教材に添えられた「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」には、道徳的価値に向き合い、理解するための発問や、自己の生き方を見つめるための発問が設けられ、道徳性の育成につなげられるよう工夫されている。</p> <p>「情報モラル」について、情報機器との関わりについて自分事として考えられるような教材を各学年に掲載している。</p> <p>3学年共通の主人公を設定した教材を配置しており、生徒の発達の段階に即して共感的に考えることができるように工夫している。さらに、ワーク方式の教材が各学年に設けられており、思考と議論を学年を超えて積み重ねられるようにしている。</p> <p>各教材に「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」を添え、生徒が主体的に考えられる問いを設定し、他者と対話することで自分の考えを深められるようになっている。</p> <p>教育長 特別の教科 道徳について意見はあるか。</p> <p>鹿山委員 新学習指導要領で示されているいわゆる主体的、対話的で深い学びについての授業改善の視点であるが、特別の教科道徳においても当然授業を行う上で求められてくる。そういった視点でそれぞれの会社で工夫がよくされていた。廣済堂あかつきは、各教材の最後に、考える・話し合うとして発問例を示しており、別冊の中学生の道徳ノートに、学習の記録や振り返りが記入できるようになっている点は良い。</p> <p>飯塚委員</p>
--	--	---

		<p>学研教育みらいは、各教材の最後に、「考えよう」として発問例を示しており、主な教材とは別に、「深めよう」というページを設け、グループでの話し合いや役割演技など活動例を示すことで、対話型の授業を強調していると感じた。</p> <p>道徳は、評価をするのが難しいと思うが、基本に人権の尊重を据えて進めてほしい。</p> <p>岸田委員</p> <p>学校生活やSNSのいじめにより苦しんでいる子供、命を落とす子供がいる。それを防ごうと道徳の教科化や今回の学習指導要領に伴う教科書採択につながっている。どの教科書もいじめやいのちの教材を充実させているが、東京書籍は、いじめやいのちについて考える教材をまとめて配列していたのが印象的であった。</p> <p>教科書採択について、道徳は他の教科と違った意味がある点も意識する必要がある。</p> <p>大久保委員</p> <p>ユニットを組んで教材を配列していたり、教材をシーズン1～3の3つに分けて提示していたり、学習指導要領の内容項目の配列順に教材を掲載していたり、教材配列の工夫も各社様々であったと思う。</p> <p>すべての子供たちが自分の気持ちをすべて表現することはできない。東京書籍の心情の円の図で友達に見せることができることは良いと思った。</p> <p>いい教材が多く、気持ちを学ぶにはいい教科である。</p> <p>岸田委員</p> <p>道徳は、主人公が困難に遭遇する等の疑似体験、また生徒が気づいていない点について、どうしたら良いか、お互いに意見を出し合ったり、議論するのが道徳の時間であり、価値、実践力である。コロナの影響により、議論することがやりづらく子供たちは不幸である。書き込み欄やつぶやき欄等を設けている教科書もある。授業を工夫することで道徳は行える。</p> <p>鹿山委員</p> <p>学研教育みらいはバランスがよいのではないかと。「主として自</p>
--	--	--

		<p>分自身に関すること」「主として人との関わりに関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」「主として生命、自然、崇高なものとの関わりに関すること」「情報モラル」や取り上げられている人物など、全ての領域でその教材配列に工夫を感じた。</p> <p>学研教育みらいの「エルトゥールル号の遭難」、日本とトルコの絆が描かれている教材は良い。ただ、記載について、日本がトルコを救った部分に対し、イラン・イラク戦争でトルコが日本を救ってくれた部分が少ないと感じた。</p> <p>大久保委員</p> <p>学研教育みらいの「未来への扉」で20歳の自分へ等、目標や夢を書く欄は良い。ぜひ生徒には1日1日を大切に過ごしてほしい。</p> <p>学校からの報告において、より生徒にとって親しみやすい題材が多く、授業者にとっては授業しやすい。との報告が出されている。</p> <p>これより非公開とする。</p> <p>【全委員承認】</p> <p>教育長</p> <p>以上で、本日の日程を終了し、定例会を閉会とする。</p>
--	--	---

そ の 他 特 に 重 要 と 認 め る 事 項

- 1 次回定例会開催予定日 令和2年8月18日(火) 午後2時
行田市産業文化会館 2A会議室

以上、顛末を記載して、その発言内容に相違がないことを証するため、ここに署名する。

教育長

委 員

委 員